

マリナライフ

[Vol. 275]



アクアギャラリー リニューアルオープン!

17年ぶりのリニューアル

構想から実現までに5か月を経て、アクアギャラリーがリニューアルオープンしました! 2008年以来、17年ぶりとなる今回のリニューアルでは、ゆっくりくつろぎながら生き物を観察できる場所を作るため、今までバックヤードとして使っていた場所を無くし、展示スペースを約1.5倍に広げました。広がった展示スペースを活かし、水槽の数を増やして展示する生き物の数を増やしました。また、水槽台をカウンター形式にすることで昨年の夏から冬にかけて行った企画展「さとうみラボ」で好評だった“イスに座って生き物を観察できるスタイル”を導入しました。

普段の業務の合間に職員同士で協議を重ね、設計から施工まで全ての作業を自分たちで行いました。そのため時間はかかりましたが、色んなところに職員のこだわりが詰まっています。リニューアル前との違いがたくさんあるので、来館して探してみてください。

注目ポイント①150cm水槽

タッチブルにならぶ目玉展示とするため、以前寄贈していただいた150cm水槽を補修して展示できるようにしました。

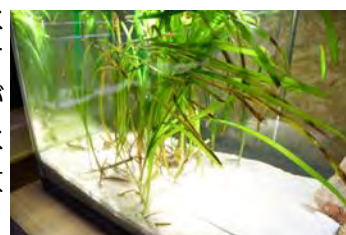


150cm水槽の登場により、これまで一番大きかった120cm水槽(243L)の約2.2倍

の水量(540L)となり、アクアギャラリーで最も大きい水槽となりました。これにより今まで飼育ができなかった大きさの魚を飼育でき、多くの魚をひとつの水槽で展示できるようになりました。

注目ポイント②アマモ水槽

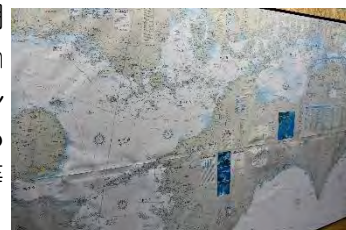
昨年春から小型水槽で試験的に行ってきたアマモの飼育が安定してきたため、水槽を120cmに拡大しました。



この水槽には、あえてアマモが生えている部分と砂地の部分を作っています。こうすることで、生き物がアマモ場を出たり入ったりする様子を見ることができ、アマモ場をどのように利用しているのか観察できる水槽となっています。

注目ポイント③瀬戸内海大地図

瀬戸内海全域を網羅する横幅420cmの特大地図を掲示しています。地図を見ると、地名や港、水深等がわかります。また、江田島近海ではありませんが、ホエールウォッチングやダイビングの場所等も書かれているため、地図を見ながら瀬戸内海一周旅行の計画を立ててみるのも良いですね。



地域おこし協力隊 えたじま里海ナビゲーター

3年間お世話になりました！



守本 怜矢 1994年5月2日 広島県尾道市出身
2級建築士、宅地建物取引士、古民家鑑定士1級、MBA(専門職)

大学で古民家と地域づくりを研究後、広島建築設計事務所にて設計・施工管理を経験。2022年に地域おこし協力隊として江田島市へ。さとうみ科学館にて、発信やデザインなどをサポート。空き家問題に向き合い、2024年に(株)milumaを設立。空き家課題解決に向けた、地域住民と連携した新しい不動産流通システム「さとまる不動産」を現在準備中。

なぜ江田島へ？

僕は学生時代に、古民家の研究を通じて地域づくりに関心を抱き、建築事務所に就職しました。しかし、都市部での設計業務に従事する中で、「まちづくりには独自の視点が必要である」と痛感しました。特に、先輩建築家の考え方を聞く中で、「建築は単なる箱づくりではなく、地域全体をデザインする仕事である」と学びました。

しかし、都市では既存の枠組みの中で設計を進めることが多く、自由なまちづくりの実践は難しいと感じました。そこで、地域に入り込むことでこそ、建築とまちづくりの関係をより深く理解し、主体的に関わることができるのではないかと考え、地域おこし協力隊に応募しました。

江田島市を選んだのは、私自身が向島出身で瀬戸内海的环境に親しんでいたこと、そして「建築×不動産×地域資源」を活かした新しいまちづくりを実践するのに適した場所だと感じたからです。地域の課題を自分ごととして捉え、地域の視点から持続可能な仕組みを生み出すことを目標に、この3年間取り組んできました。

1年目：地域理解と里海構想

協力隊1年目は、江田島の地域資源の価値を知り、どのように活かせるかを考える期間でした。特に、さとうみ科学館での活動を通じて、生き物の生態系や人々の暮らしとの関わりを深く学びました。江田島の海には、多様な生き物が生息し、それらと共に暮らしてきた歴史があることを体感しました。漁業や農業における自然との共生、地域の文化として受け継がれてきた知恵が、まちの魅力を形づくっていることに気づきました。「地域を知る」とは単に観光資源を把握することではなく、人と自然が築いてきた関係性を理解することなのだと感じました。

こうした学びをもとに江田島のブランドについて考える中で、地域の魅力が点在し、統一的な発信がされていない課題を感じました。他の地域では「瀬戸内のハワイ」や「教育の島」といった分かりやすいコンセプトがあるのに対し、江田島には「江田島らしさ」を明確に伝える共通の言葉がありませんでした。そこで、海を軸とした「里海」という概念を活かし、地域の価値を整理するブランディングの可能性を模索しました。

また、経営学大学院での学びを通じて、地域活性には「ビジネスの視点」と「みんなで連携する仕組み」が不可欠であることを学びました。持続可能な地域づくりには、経済的な仕組みとコミュニティの協力体制が必要であり、里海という概念を活かして、江田島の魅力を発信し、活用するための方向性を探ることが1年目の大きなテーマでした。



2 年目：里海で実践的な取り組みへ

2 年目は、里海という地域資源の価値を広めるための発信と実践を進めました。まず、「里海コラム」を通じて、里海の背景や価値を発信し、地域住民や観光客にその魅力を伝える活動を行いました。

また、広島湾で深刻化している「海ごみ問題」に着目し、建築やまちづくりの視点を活かしたワークショップを実施。広島湾の模型を使い、海ごみの流れを可視化しながら課題を考える場を提供しました。さらに、(一社)フウドと協力し、「未来の海づくり展」を開催し、地域の子どもたちとともに海ごみ問題への理解を深める機会を作りました。

観光協会とは、ウミホタルの観察会を実施し、単なる鑑賞ではなく、生態系としての役割を解説。また、江田島荘のエコツーリズム造成に向けた講演やクルージングを企画し、観光と環境保全の両立を模索しました。

さらに、建築スキルを活かし「新鮮市場あまも」の設計を担当しながら、HBMS では「さとまる不動産」設立に向けた論文を執筆。2 年目は、里海の価値を伝え、地域資源を活かしたまちづくりと将来の事業構想を進める重要な期間となりました。(※HBMS：県立広島大学大学院経営管理研究科)



3 年目：未来の江田島のために

3 年目は、これまでの経験を活かし、「里海 × 建築 × 不動産」を掛け合わせた「さとまる不動産」の立ち上げを本格化させました。江田島の空き家問題に対し、単なる不動産仲介ではなく、地域と人をつなぐ仕組みづくりを目指し、「田舎と関わる選択肢を増やす」ことをコンセプトに掲げました。

江田島には豊かな自然や文化がある一方で、空き家の活用が進んでおらず、移住希望者とのマッチングが難しい課題がありました。これまでの活動で培った「里海の価値発信」「地域ブランディング」「まちづくりの視点」を活かし、地域に根ざした不動産サービスの構築を進めています。

また、呉市の起業家育成枠に採択され、クラウドファンディングを実施しながら、事業の認知度を高めました。今後は、江田島を「住む場所」ではなく「関わる選択肢がある場所」として育て、空き家活用を通じて新たな地域の価値を創出していきます。



最後に皆さんに伝えたいこと

この3 年間は、本当に多くの方と、町について真剣に話をさせていただく機会を数多くいただきました。自分自身地域をテーマに仕事をしたいという想いが強く、これほどワクワクしながら働けることはなかったと思います。それも全て、関わってくださった皆様のご協力のおかげだと、心の底から思います。さとうみ科学館の協力隊になれて、本当に良かったです。これからも江田島を盛り上げていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします!!!

◆ 第201回自然観察会 ◆



さあ、海へ出かけよう！！



野外観察シーズン到来です。これから夏にかけて昼間によく潮が引くので、海辺の生き物観察には最適です。ぜひ観察会に参加してみたいはいかがでしょうか？

きっと楽しい発見が待っていますよ！！

日 時：令和7年4月26日（土）
12:30～15:30
（干潮時刻 14:41 +26cm）

集 合：さとうみ科学館（12:30）

観察場所：大柿町深江釣附海岸

（観察場所までの移動は各自でお願いします。）

※ 海岸までの道は少し狭くなっています。

申し込み：令和7年4月24日（木）まで

※観察場所付近の駐車スペースには限りがありますので、申し込み多数の場合は期日前に申し込みを締め切る場合があります。



☆持ってくるもの☆

○ぼうし ○軍手 ○長靴

○水筒（飲み物）○タオルなど

潮見表 4月の観察に適した日時（干潮時刻と潮位）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
時分	5:25	6:04	6:45	7:34	8:56	11:29	12:49	0:32	1:30	2:13	2:49	3:21	3:51	4:20	4:48
cm	52	85	122	157	183	180	153	94	79	66	59	58	62	70	82
時分	17:39	18:17	18:57	19:46	21:04	23:05		13:33	14:08	14:38	15:07	15:35	16:01	16:27	16:54
cm	-13	1	26	59	91	104		124	98	75	56	42	31	24	22
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
時分	5:18	5:49	6:23	7:03	7:57	9:34	11:32	12:36	0:35	1:32	2:20	3:04	3:46	4:27	5:09
cm	96	112	130	150	169	179	163	132	82	63	50	48	56	72	94
時分	17:22	17:51	18:23	19:01	19:54	21:22	23:14		13:21	14:02	14:41	15:20	15:58	16:37	17:17
cm	25	34	48	66	87	103	101		96	60	26	-1	-17	-22	-14

cmの数字が小さいほど、よく潮が引きます。

令和7年 潮汐表（海上保安庁）から

潮位30cm未満（白抜きの文字）が調査に適しています。

事務局だより

●海辺の生き物イラストカレンダー完成！

令和6年度「ふるさとの自然」作品コンクール入賞作品80点を掲載したイラストカレンダーが完成しました。このカレンダーは、作品コンクール入賞者のみなさんにプレゼントするとともに、市内の小中学校、公共施設等に配布しておりますのでご覧ください。なお、このカレンダーをご希望の方は、さとうみ科学館事務局までご連絡下さい。



●令和7年度休日開館のお知らせ

令和7年度も、休日開館の実証実験を行います。来年度も毎週土曜日に開館します。お一人でもご家族でも、お近くの方も遠方からの来館も大歓迎！！もちろん、これまで通り、平日は学校教育事業の支援、休日は自然観察会や地域イベントへの協力など社会教育事業を行っていきます。この機会にぜひご利用ください。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。
開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

江田島市教育委員会 教育部 大柿自然環境体験学習交流館

さとうみ科学館
Satoumi Science Museum (SSM)

〒737-2214

広島県江田島市大柿町深江1073番地1

TEL: (0823) 57-2613

FAX: (0823) 40-3100

メール: satoumimail@yahoo.co.jp

HP: 『さとうみ科学館』で検索

◆事務局スタッフ◆

館 長：西原 直久
専 門 員：平山 良太
学 芸 職 員：鎌崎 賢三
運営指導員：下中 茂樹
運営指導員：峯 哲士
支 援 員：木村 さつき
里海ナビゲーター：守本 怜矢



（友の会会員）

シニア 182名

ジュニア 141名

◆あとがき◆アクアギャラリーのリニューアル作業では錆びて動かなかった扉の修理も行いました。自分たちでコンクリートを崩してレールを交換して滑らかに動くようにしました。きっと気づかれることはない変化なのですが、実は苦労した部分なのです。（鎌崎）